

日本列島の自然と世界の古代文明から 生まれた日本文化

シビルNPO 連携プラットフォーム個人正会員
NPO 法人 関西ミニウイングス 事務局長 山下 正章



1. 土木技術という文明・文化

土木技術者の仕事は、厳しい自然環境の下で、人々が安全で安心して暮らせるための基盤を整え、維持していくことであることは言うまでもありません。よって土木技術の歴史は古く、物質文明や精神文化と深い関係があります。また、日本列島には世界の自然災害のほとんどがあります。台風や豪雨、地震や津波、火山の噴火、地すべりや斜面崩壊、土石流などに対処するため、高度な土木技術のみならず、大災害時の国民の役割分担のあり方（国体や国柄）が培われてきたのだと思います。

2. 日本文化の特徴

日本列島の豊かな自然の恵みと自然の厳しさの中で暮らす先人が、長年にわたり創り上げてきた文明や文化が日本文化と言われています。その特徴は、

① 自然の神々から学ぶ文化（神道における自然に対する畏敬心、助け合いの心）

自然災害から身を守るには、万物に神が宿ると考えて畏敬の念を持ちつつ謙虚に学び、不自然さを穢れと認識してそれを祓うことが大切であるという考え方に到達したようです。また、人は分をわきまえ、自分ができることに精を出し、互いに助け合いながら生きるしかないという文化も継承してきました。

② 素材を混ぜずに組合せて、より美しいものを創造する文化（和して同ぜずの文化）

縄文時代から渡来してきた人々の異なる文化も貪欲に学び、自らが不自然さを感じる部分を穢れとして祓いつつ、より美しい自然な文化を創造してきたようです。例えば、日本語も外来の「漢字」という素材を尊重し「音読み」として残しつつ、大和言葉を「訓読み」として追加し、さらに「仮名」を創造してきました。

③ 貴族文化から大衆文化まで（文化の担い手が、生活者である大衆まで拡大）

和歌は天皇陛下から名もない大衆（読み人知らず）までもが読んでいます。また、庶民が楽しむ「物語」も古くから創作され、工芸などの職人文化も豊富です。

3. 古代の世界文明を継承する日本文化

日本文化の由来についての最近の研究では、最初に日本列島に住み着いた人々だけで醸成した文化ではないことが分かってきたようです。ヒトはアフリカで生まれユーラシア大陸や周辺の島々を経由して日本列島に到達したことが明らかになっています。

すなわち、現在の日本文化は、世界の異なる自然の中で醸成された古代の高度な文明をも取り込み、継承している文化とも言えます。したがって、古代のエジプト文明、メソポタミア文明、インダス文明、黄河文明などの文明の痕跡が日本のどこかで継承されていることを意味しています。外国人が日本の文化に触れると「何故か穏やかさや懐かしさを感じる」と聞いたことがありますが、とても誇らしく思うと同時に、この多様性に富んだ伝統文化を皆で継承していくことが大切であると思います。

4. 多様な文化との交流に向けて

世界の多様な異文化に触れることはとても勉強になることもありますが、逆に紛争の原因になることもあります。人の文化的思考タイプは①自己偏狭型(Only way type)、②自己中心型(Best way type)、③相乗効果型(Creative way type)に分類されると言われています。自分の文化が一番と思い込んでいる②型の思考タイプの場合には、紛争の原因になることが多いようです。

日本文化は、日本列島という特異な自然環境のもとで醸成されてきたものなので、世界にそのまま受け入れられるものではありませんが、楽しく交流する為には、日本文化の本質を理解してもらう地道な活動が求められていると思っています。